

請 願 文 書 表
(令和7年第2回定例会)

請 願 第 9 号	令和7年6月11日受理
付 託 委 員 会	福祉常任委員会
件 名	東京女子医科大学附属医療センターにおける医療従事者確保や診療科の内容に関する件
紹 介 議 員	菅 野 文 男 議員
請 願 要 旨	
過日実施された市長選挙中に、市民の方から切実な要望や願いを多く受け取りました。私自身、子宮頸がんになり患し、この数年間のうちに乳がんも発症し、診断を受けたのは勝田台病院、そして最速での手術予約がとれたのは5か月後でした。手術後、無事退院の運びとなりましたが、検診日に意識不明、心肺蘇生直前まで治療を受け続けるという「九死に一生」の経験を致しておりますことから、八千代医療センター様には大変にお世話になっており、医療現場の疲弊に関しても、己の身をもって感じるものがございました。“献身的な態度”は、患者にとって何よりの“心強い味方”であり、又、逆にそのような職場環境におかれている医療者の方々に対して心からの感謝を感じました。医師、看護師、各種検査技師、そして事務担当者、掃除の仕事を担ってくださる方々、すべてが一体となって経営困難な、この中核病院を支えて下さっていることには自然と頭が下がります。又、緑が丘駅での市民との出会いでは、他自治体から引っ越してきてから間もなく、幼な子の病がみつきり、女子医大附属八千代医療センターで手厚い看護を受けたこと、そして今後の治療にも時間を要することから、「御恩を感じています。素晴らしい病院スタッフの方々をどうか護ってあげて下さい。」と懇願されました。又、ゆりのき台に2か月前に引っ越して来た方と出会った時には、「仙台にいたが、娘が近くに住んでいるので、八千代市に来てはどうかとの誘いを受け、ここに居住を始めました。私は5つの病を抱えており、寿命についても深刻な段階を迎えています。しかしながら、病院までのアクセスや、最も大事な医療面での安心感が全く持てないのです。私の病は医療センターでは診られないと5つの科に言われました。どうして、ここが中核病院と言えるのでしょうか？」と大変に深刻な表情で仰られました。又、勝田台の婦人は、「主人が救急車で運ばれたんです。しかし、医療センターでは診てもらえず、2時間半後に、他自治体の病院にやっと受け	

請 願 文 書 表
(令和7年第2回定例会)

入れてもらって、治療に至りました。なぜ八千代市民である私の家族が万一の時を迎えるやもしれないときに市が誘致に多額の税金を費やしたこの、市民の命のとりでとなるべき病院での救命が危ぶまれる事態に陥っているのでしょうか。」これらの声はすべてすべて、「何とか助けてほしい」という市民の願いであり、又、困難を極める中でも必死に患者と向き合い、仕事に誇りをもって日々臨んでいる従事者に対する感謝と、そしてエールの声なのです。どうぞ市民の願いを汲み、そして従事者たちを護り抜いて下さいますよう、心よりお願い申し上げます。

< 請願要旨 >

1. 八千代医療センター誘致時の健全なる病院の経営状態、医療提供状態をできる限り早期に再生していくこと。その為に必要な支援を、市独自で、あるいは県に窮状を訴える等して、最大限していくこと。

他自治体（船橋市、柏市）の公立病院に対する県支援策とは成り立ちを異にするがしかし、市長と知事のトップ会談等を行うことにより、解決に向けた何らかの策を早急に講じる努力をし、市民にその進捗状況の説明を十二分にすること。

医療従事者の確保等に関しては、スピード感をもって全庁的、横断的つながりの中で、その解決策を探ること。（全国的に従事者募集等の宣伝広告訴えをするような策を練り、関係者各位に、その手立ての具体的内容を検討するよう促し、職員全員の共通課題として市民の命を護る意識の高揚を図るようにすること等）